

薬事情報センターに寄せられた県民・医療従事者からの相談事例 (2014年8月)

【適正使用】

Q：膝と腰の痛みにロキソニンTMを服用中。効果がないので一般用医薬品の鎮痛薬を買って服用して良いか？（県民）

A：一般用医薬品の鎮痛薬とは作用が重複するので使用しない。医師に痛みが治まらないことを相談する。

Q：一般用医薬品のロキソニンTMSを14歳の子供に服用させて良いか？（県民）

A：小児の薬物動態は成人と異なるため年齢制限があり、添付文書には15歳以上が服用となっている。不適正な使用の場合、副作用が起こっても副作用被害救済制度の対象とはならないので、使用は避ける。

Q：ユナシンTM細粒を服用中に下痢になった。市販の新ビオフェルミンTMSを服用して良いか？（県民）

A：抗生物質服用による下痢は、通常の乳酸菌製剤では効果がなく、耐性乳酸菌製剤が必要。主治医に伝え処方してもらおう。

【相互作用防止】

Q：西洋シロヤナギの健康食品と相互作用のある医薬品は？（薬局）

A：西洋シロヤナギの主成分はサリシンで、アスピリン類似成分である。抗凝固薬や抗血小板薬と併用すると出血リスクが上昇し、アスピリンや解熱鎮痛消炎薬（NSAIDs）とは作用が重複するため、併用は避ける。

【禁忌】

Q：抗ガン剤治療で白血球が減少している患者が納豆を摂取して良いか？（薬局）

A：白血球減少時には、通常病原性を示さない微生物によっても感染症が発症する可能性があるため、可能な限り微生物との接触を避ける必要があり、食事の際は微生物による消化管感染症の発症を予防することは重要である。納豆等の発酵食品は、抗がん剤治療時で白血球が減少している期間（白血球数1,000以下、好中球数500以下）は、摂取を控える必要がある。

【妊婦・授乳婦】

Q：妊娠6週目。抜歯後の痛み、ロキソニンTM、ボルタレンTM坐薬が処方されたが、使用して良いか？（県民）

A：妊娠初期に使用して、奇形発生の頻度や危険度が上昇するとは考えられない。中期～後期の使用では、羊水過少や胎児循環等に影響する恐れがある。妊婦の痛みに対する第一選択薬はアセトアミノフェンである。

【副作用】

Q：14歳、37Kgの患者に、他の歯科でカロナールTMが処方され、服用後アナフィラキシーが出現した。検査の結果、アセトアミノフェンが原因と診断された。母親は当院の患者で、ボルタレンTMやロキソニンTMを持っており、それを子どもに使用して良いか聞かれたがどうか？（歯科医師）

A：アナフィラキシーがアセトアミノフェンのみに対する反応なら、ボルタレンTMやロキソニンTMでは起こらないと考えられるが、アレルギー体質の場合、他の医薬品の使用にも注意が必要である。ボルタレンTMやロキソニンTMは本人に処方された薬ではなく、重大な副作用等が起こっても副作用被害救済制度の対象とはならないので、使用は避ける。